OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Berberine含有生薬の生薬学的研究
Author(s)	水野, 瑞夫
Citation	大阪大学, 1972, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/30799
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【9】

氏名・(本籍)	水野瑞夫
学位の種類	薬学博士
学位記番号	第2682号
学位授与の日付	昭和47年12月20日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	Berberine含有生薬の生薬学的研究
論文審査委員	(主査) 教授 吉岡一郎 (副査) 教授 滝浦潔 教授 池原森男 教授 田村恭光

論文内容の要旨

主要Berberine含有生薬、黄連、黄柏について生薬学的研究を行った。日本産黄連の本草文献的研究により日本産黄連の歴史を明確にし日本産黄連と中国産黄連との関係を見出した。日本産 Sect. Chrysocoptis の3変種について分布を調査し、分類は分布を加味して3出複葉の回数で行った。それ等についてPetiolule Ratio 、Palisade Ratio 植生、温度と積雪量について関連のあることを認めた。日本産Sect. Chrysocoptis の根茎はその内部構造から、師部および基本組織中に存在する器械組織の認められるものと全く認められないものの2型に分類できる。これは変種段階の分類と関係がない。分布境界地域は本州の中央部富山と浜松を結ぶ地帯である。境界線より西側のものは器械組織が存在しWest－type、東北側は存在せずEast－typeと称する。日本市場黄連の因州播磨、丹波、加賀および越前黄連はWest－type 、佐渡および日光黄連はEast－type に属する。主要な日本市場の基源植物は栽培品型（セリバ型）丹波黄連に起因する。丹波黄連には2型を認める。中国産黄連、川連、西連の基源植物はCoptis chinensis 凧尾連はCoptis omeiensis である。TLCによる（2次元）定量法によりBerberine を他のアルカロイドと分離定量した。クロマトグラムからは中国産黄連、日本産黄連を明瞭に区別することができた。樹幹解析法を応用しBerberine生産量についての研究を行った。インド黄柏の基源植物はBerberis asiatica Roxb 。（BERBERIDACEAE）である。

論文の審査結果の要旨

本論文は黄連の本草文献的調査を行ない、ついで日本産黄連の分類と分布を明らかにし、又中国産黄連との差異を内部構造および成分について明らかにしたものである。

又黄柏については樹幹解析によりベルベリン生産量についての試案を提出し、又輸入インド黄柏の原植物を明らかにし、日本産黄柏との差異を論じたものであり学位論文として十分価値あることを認める。